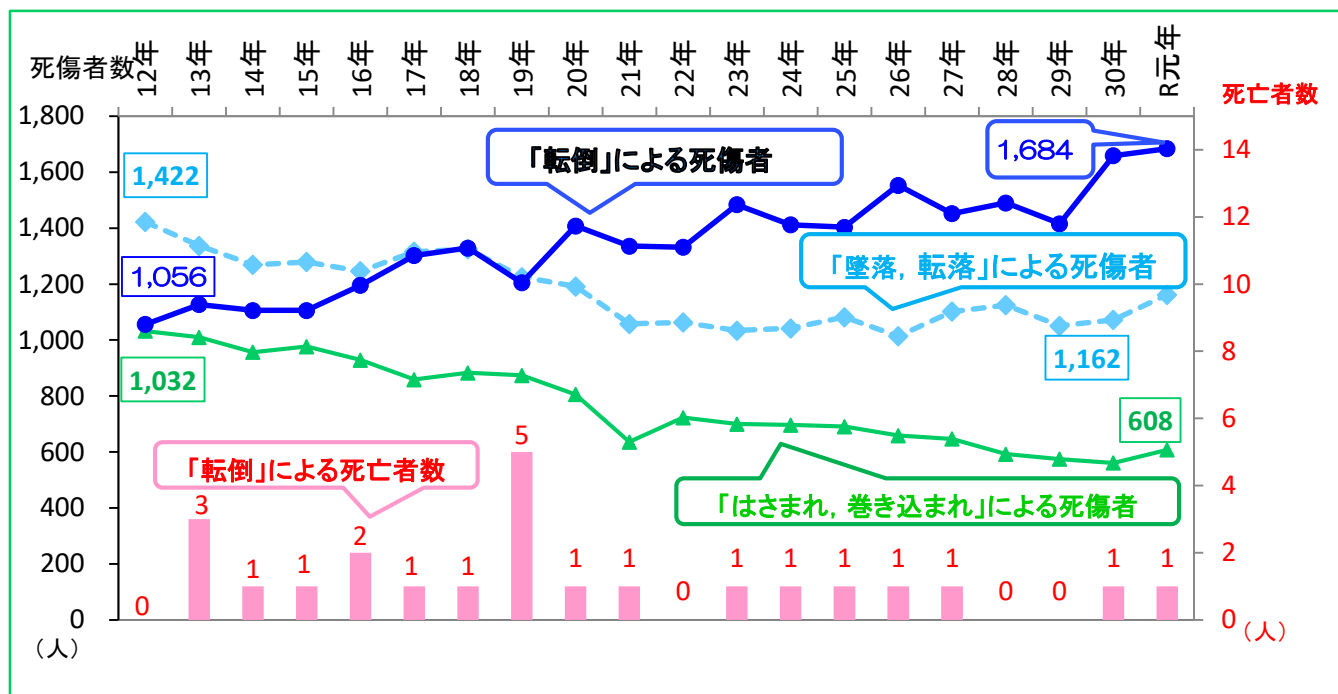


STOP！転倒災害プロジェクト神奈川

6月・2月は転倒災害防止の
重点取組期間です！

神奈川労働局・県下各労働基準監督署

「転倒」（※事故の型）による死傷災害件数の推移
（「墜落、転落」、「はさまれ、巻き込まれ」との比較）



令和元年に神奈川県内で発生した労働災害（休業4日以上死傷災害）による死傷者数は7,095人で、事故の型別に分類すると、「転倒」が最も多く、死傷者数1,684人、全体の約24.0%となりました。

神奈川県下においては、平成11年（全国では平成14年）までは、「事故の型別」として発生の多い順に「墜落、転落」「はさまれ、巻き込まれ」「転倒」でした。

平成12年から19年（全国：平成15年～16年）までは、「墜落、転落」「転倒」「はさまれ、巻き込まれ」の順となり、平成20年（全国：17年）からは「転倒」「墜落、転落」「はさまれ、巻き込まれ」の順となり、「転倒」による災害が事故の型別分類で1番多い災害となりました。

この背景としましては、「墜落、転落」災害は、「手すり先行工法に関するガイドライン（平成15年）」の普及、足場に係る法規制の強化（平成21年、27年）、「はさまれ、巻き込まれ」災害については、機械の包括的な安全基準に関する指針（平成18年）による機械の本質安全化、リスクアセスメントの実施等、事業者、関係者の取組みにより災害が減少した反面、労働者年齢の高年齢化等から転倒災害の発生件数の増加、割合が大きくなってきています。

※事故の型別分類 とは、

「事故の型および起因物分類」（昭和48年から労働省（当時）で採用された災害分類）

この分類は労働災害防止対策との結びつきを強め、かつ、できるだけ簡明に把握するため死傷災害を事故の型分類および災害の主因に焦点をおいて起因物分類の2種類とし、これらの分類および業種別等を組み合わせることにより、災害の分布状態を多角的に解明しようとするもの。（出典：労働災害の分類（中央労働災害防止協会））

「事故の型」とは、傷病を受けるもととなった「起因物」が関係した現象をいう（21分類）

「起因物」とは、災害をもたらす「もと」となった機械、装置もしくはその他の物または環境等をいう（大分類：8項目）

参 考

「事故の型」21分類：1墜落、転落 2転倒 3激突 4飛来、落下 5崩壊、倒壊 6激突され 7はさまれ、巻き込まれ 8切れ、こすれ 9踏み抜き 10おぼれ 11高温・低温のものとの接触 12有害物等との接触 13感電 14爆発 15破裂 16火災 17交通事故（道路） 18交通事故（その他） 19動作の反動、無理な動作 90その他 99分類不能

「起因物」大分類：8項目 中分類：25項目 小分類：101項目

大分類：1 動力機械 2 物上げ装置、運搬機械 3 その他の装置 4 仮設物、建築物、構築物 5 物質、材料 6 荷 7 環境等 8 その他

神奈川県労働局における取り組み

平成27年に厚生労働省と災害防止団体は、「STOP! 転倒災害プロジェクト2015」として「転倒」による災害を防止すべく全国的な取り組みをはじめました。翌年の平成28年以降も継続して「転倒」による災害の防止に取り組んでいます。

神奈川県労働局においては、『STOP! 転倒災害プロジェクト神奈川』として平成27年から同様に取り組みをはじめると同時に、

「ころばNICEかながわ体操」

と称して、神奈川県労働局独自に、公益財団法人かながわ健康財団の意見をきいて、転倒予防のための体操を考案しました。

神奈川県労働局・県下各労働基準監督署・労働災害防止団体では、全国安全週間の準備期間である6月と、積雪や凍結による転倒のリスクが高い2月を重点取組期間として、この体操の提案、周知を行っています。

転倒災害は、どのような職場でも発生する可能性があります。関係するすべての人が問題意識を持ってその危険原を見つけ、どのように改善するか「安全委員会」などで、それぞれの立場でアイデアを出し合い、検討する必要があります。

また、「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働ける職場環境の整備、作業方法の改善等により、転倒によるリスクの低減を行いましょう。

動画をホームページで公開しています。

動画へ⇒



※ 再生できない場合があります。

https://jsite.mhlw.go.jp/kanagawa-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei/hourei_seido/_120208/koribanice.html

職場の安全サイトのご紹介

転倒災害防止をはじめとする労働安全衛生に関する各種の情報を提供しています。

厚生労働省
職場のあんぜんサイト

HOME → お問い合わせ → サイトマップ

働く人の安全を守るために有用な情報を発信し、職場の安全づくりに貢献。家族、企業が元気になる職場を創りましょう。

労働災害統計 | 災害事例 | リスクアセスメント実施支援システム | 安全衛生キーワード | 化学物質 | 免許・技能講習

ホーム > STOP! 転倒災害プロジェクト

STOP! 転倒災害プロジェクト

転倒災害についてはこちら | 転倒災害対策についてはこちら | 転倒災害対策好事例についてはこちら

厚生労働省と労働災害防止団体は、休業4日以上の死傷災害で最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。

このサイトには、転倒災害の防止に関連する様々な情報を掲載しております。皆さまの職場での転倒災害防止対策の推進に、ぜひお役立てください。

○ リーフレット
○ 「STOP! 転倒災害プロジェクト」実施要綱

ホーム > 教材・資料 > 転倒・腰痛防止用視聴覚教材

転倒・腰痛防止用視聴覚教材

お知らせ

更新履歴

- 6月18日 「STOP! 転倒災害プロジェクト」実施要綱を更新しました。
- 3月20日 資料・教材に「転倒・腰痛防止用視聴覚教材」を掲載しました。

転倒や腰痛は、第三次産業でも日常的に起こり得る災害です。働く皆様も日常的に転倒や腰痛災害の防止を心がけられるよう、災害事例、防止対策をまとめております。職場での安全衛生教育などにお役立てください。



～飲食店、小売業向け転倒・腰痛防止用視聴覚教材～
(8分56秒)

[飲食店、小売業はこちら](#)



～社会福祉施設向け転倒・腰痛防止用視聴覚教材～
(8分55秒)

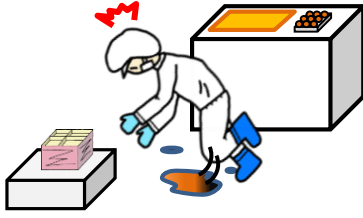
[社会福祉施設はこちら](#)

職場の安全サイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/> 「mhlw.go.jp」は厚生労働省のサイトです。

転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。あなたの職場にも、似たような危険はありませんか？

滑り



[主な原因]

- 床が滑りやすい素材である。
- 床に水や油が飛散している。
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。
(作業環境管理)

つまずき



[主な原因]

- 床に凹凸や段差がある。
- 床に荷物や商品、台車など放置されている。
- 暗くて足が見えない(照度不足)
(作業環境管理)

踏み外し



[主な原因]

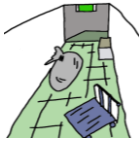
- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業をさせている。
- 暗くて足が見えない(照度不足)
- 主たる作業現場でないために、掃除が十分に行われていない。
(作業管理)

転倒災害防止対策のポイント

転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率の向上が望めます。

4S 環境(設備)管理面の対策 [4S(整理・整頓・清掃・清潔)]

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消
- ◆ 手すり、滑止めの設置



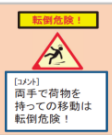
転倒しにくい作業方法 (作業方法等の改善)

- ◆ 時間に余裕を持って行動(作業時間の適正化)
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行(教育)
- ◆ 足元が見えにくい状態で作業させない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成による危険情報の共有(危険の見える化)
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起
(転倒危険個所の見える化)



[コラム] 正しい靴の選び方

靴は、自分の足に合ったサイズのものを使いましょう。小さすぎる靴では足指が動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りがきかなくなります。逆に大きすぎる靴では、歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかかどが、足の動きに追従できなくなります。

以下のポイントにも注意して、作業に合った靴を選びましょう。

靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。

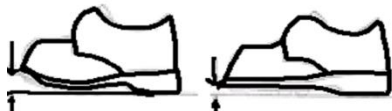
靴の重量バランス

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりやすく(トウダウン)、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。



つま先部の高さ

つま先部の高さ(トゥスプリング)が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずきやすくなります。



靴底と床の耐滑性のバランス

滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要がありますので、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った対滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、標識などで注意喚起していますか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！

(R2.5月)